

現在、那覇市民会館は休館しています。市民の文化芸術活動の発表の場や鑑賞の場がありません。また、多くの中学校の合唱や吹奏楽大会、高校の芸能鑑賞会、修学旅行生の平和講演など、これまで行われてきた公演などが市民会館で開催できず、文化および教育の面で早急に新たな施設を整備することが求められています。

この事業は、沖縄の振興に大いに資する施設として、平成24年度の事業開始以降、「基本構想」から、現在取り組んでいる「実施設計」などについて、議会の承認を得て「沖縄振興特別推進交付金」を活用して

事業を中止したらどうなるの？



事業説明会のほか、市民や文化関係の利用団体など、さまざまな方を対象にフォーラムやワークショップ、シンポジウム等を延べ17回開催し、延べ約680名の方に参加いただきました。

その他、基本設計を行う設計者選定にあたっては、公開で行ったプレゼンテーションでは、パレット市民劇場がほぼ満席となりました。また、基本設計の2回のシンポジウムでは、延べ300名の方に参加いただきました。

説明会の状況はどうだったの？



拡幅整備後の一銀通りのイメージ

そこで、平成27年6月から、地域のみなさんとともにワークショップや勉強会などを重ね、参加できなかった住民や事業所の方のご意見も踏まえ、新たなまちづくりのルールなどを定めました。

そこで、平成27年6月から、地域のみなさんとともにワークショップや勉強会などを重ね、参加できなかった住民や事業所の方のご意見も踏まえ、新たなまちづくりのルールなどを定めました。

市都市計画では、久茂地・牧志地区のまちづくりは、国際・商業・観光都市を形づくることを将来像にかかげている一方で、慢性的な渋滞が課題として、交通環境の改善と良好な歩行空間を確保することを方針にかかげてきました。

久茂地小学校の統廃合によって、周辺環境の変化が予想されます。例えば、文教地区が解除されることで風俗営業の制限が緩和されることから、これまでと同様な環境を守るため、新たなまちづくりのルールが必要になりました。

久茂地・牧志のまちはどうなるの？

ワークショップでは、地域で大切にしたいものについて討議した結果、「利便性」「緑ヶ丘公園」「まちなみ」「地域の伝統」「地域のきずな・交流」の5つが整理されました。



新文化芸術発信拠点施設建設と久茂地・牧志のまちづくり

みなさんの疑問にお答えします

ワークショップでは、久茂地小学校跡地から、県庁前駅まで歩き、周辺環境を確認しながら、参加者それぞれの感想を共有したり、来場者の動線・将来的な維持管理を含めた使い方を考えたりしました。

ご意見には、女子トイレの増設や機材を運ぶトラックの搬入口が使いにくい、また道路に面したガラス張りの練習場は、非公開で公演を作り込む場合は適さないなど、舞台技術者や利用者の視点から、さまざまな提案をいただき、基本設計に反映することができました。

なぜ久茂地小学校跡地に決定したの？

新文化芸術発信拠点施設の建設地は、市が利用できる3つの候補地から選ばれました。

候補地になったのは、①久茂地小学校跡地、②現市民会館所在地、③新都心仮庁舎跡地です。

選定は、中心市街地の活性化、公共交通利用の推進、経済

進めてきました。今後、次年度から平成32年度まで建設工事を行い、平成33年度に開館します。

この交付金は、平成33年度が最終年度とされているため、同年度の開催をめざし計画を進めており、交付金が最大限に活用できます。

事業を中止したり、場所を見直したりした場合、基本計画から改めて行うため、場所の選定の作業も含めて、完成までに7年から8年の期間がかかります。文化活動の停滞、教育の面での影響が大きくなると懸念されます。また、「沖縄振興特別推進交付金」の期間外となることから、市の一般財源の持ち出しによる財政負担が莫大なものになることや、これまで活用してきた「交付金」の返還の可能性もあります。

どれくらい費用がかかるの？

この事業の今までにかかった予算は、平成24年度から平成29年度までの予算として、約10億9千万円です。また、これからの整備にかかる予算は、現時点の概算で、平成30年度から平成32年度までで、約12億9千万円です。総事業費は概算で、約13億8千万円となり、主なもの、建設費が約10.8億円、敷地拡大にかかる費用として約1億7千万円です。また、予算の配分、市の持ち出し額には、平成24年度から平成29年度までの予算は、事業費約10億9千万円、その財源の内訳は、沖縄振興特別推進交付金見込み額、約8億2千万円、地方債約1億6千万円、一般財

渋滞は改善できるの？

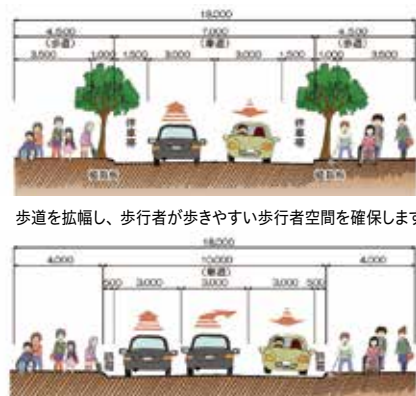
そして、これまで都市計画の方針としてかかげてきた「一銀通りの道路整備についても、新文化芸術発信拠点施設整備をきっかけに、慢性的な交通渋滞の緩和に取り組むことになりました。具体的には、施設が面する一銀通りの交差点改良や歩道を広げ、病院通りについても、歩行者が歩きやすくなるよう歩道の改良を予定しています。

「歩いて楽しいまちづくり」を進め、クルマに頼り過ぎないライフスタイルをこの久茂地・牧志地域から発信していきます。

一銀通りが渋滞するのはなぜ？

一銀通りに限らず市内では、朝の通勤・通学時間や夕方の帰宅時間帯に、慢性的な交通渋滞が発生しています。一銀通りの久茂地橋交差点や松尾交差点では、右折車や左折車により直進車が通行できないなどの原因もあり、渋滞が発生しています。

バスやモノレールが便利な理由は？



歩道を拡幅し、歩行者が歩きやすい歩行者空間を確保します

交差点改良を行うことで、交通混雑の緩和を図ります

新文化芸術発信拠点施設建設地は、モノレールの県庁前駅や美栄橋駅から約400メートルの距離にあり、徒歩7〜8分程度でアクセスできる場所です。

また、約100系統の路線バスが利用でき、平日で約2300便、土日祝日も約1900便のバスが運行し、県内でも公共交通の利便性の高い地域です。モノレールに関しては、現在、浦添市までの延長に取り組んでおり、最終駅の「てだこ浦西駅」には沖縄自動車道と結節とし、モノレールとスムーズに乗り継ぎができるための、1000台規模のパークアンドライド駐車場を設けることになっています。平成31年の開業後には、中北部からパークアンドライド駐車場を利用し、モノレールで新文化芸術発信拠点施設へアクセスすることもできるようになります。運行ダイヤについても、延長にあわせて増便する予定で、現在よりも便利になります。

公共交通を利用して新文化芸術発信拠点施設を訪れることに

現市民会館はどうなっているの？



源約1億1千万円。平成30年度から平成32年度までで、概算で、事業費約12億7千万円、その財源の内訳として、沖縄振興特別推進交付金見込み額、約99億円、地方債約2.4億円、一般財源約4億9千万円になります。

開館から47年以上が経過し、施設の老朽化が進み、特に、建物のコンクリートの劣化が著しく、場所によっては部分的に剥離し、落下するという状況も確認されています。

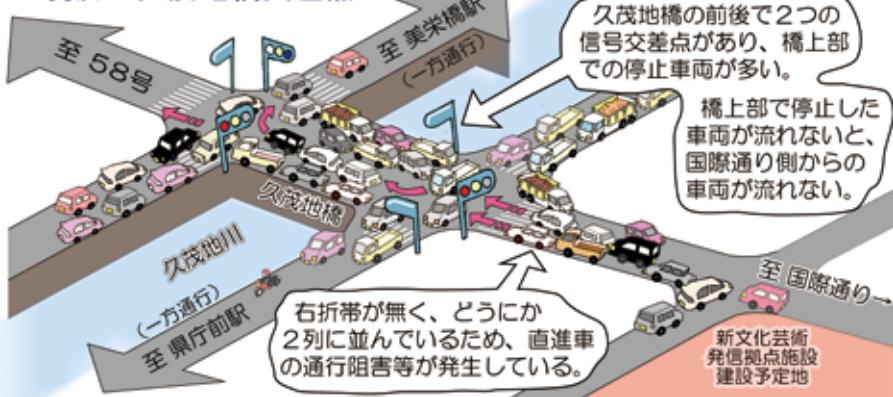
地震に対する安全性を確認するために、耐震診断を実施した結果、耐震性が不十分であり、大規模地震が発生した場合、建物倒壊する危険性が高いとの診断結果が出ました。

このことから、平成28年10月13日より休館することになりました。

一方、現那覇市民会館は建築物としての歴史的価値が評価され、建物の保存を求める声があります。

今後は、建物を活用しながらの保存が可能か、あるいは解体して新たな施設を建設すべ

■現況の久茂地橋交差点



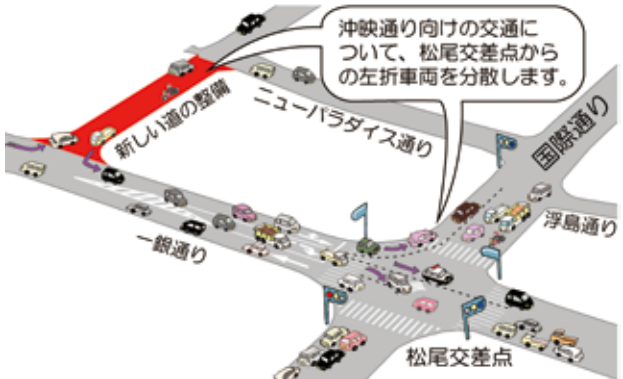
■現況の松尾交差点



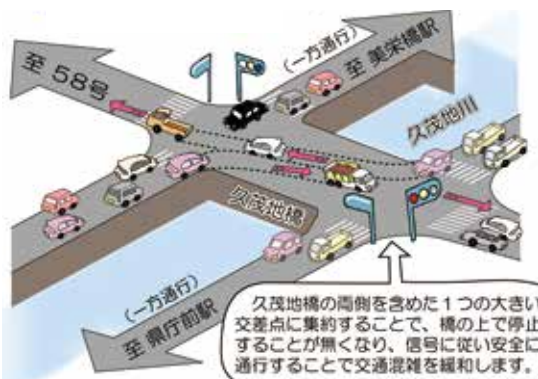
より、施設利用の前後にまち中を散策しながら、周辺のお店などを利用することで中心市街地の活性化が期待できます。

＊自宅から自家用車で最寄の駅・バスまでアクセスし、近接した駐車場に車を駐車して、モノレールやバスなどの公共交通に乗り換えて目的地へ移動すること

■松尾交差点改良のポイント



■久茂地橋交差点改良のポイント①



■久茂地橋交差点改良のポイント②



※バス路線の詳細な情報については、「バスマップ沖縄」(http://www.kotu-okinawa.org) をご覧下さい。

きかを決めて行く必要があります。利活用に必要な費用は、概算で約31億円となり、内部のリニューアルを含めると更に費用が増加する可能性があります。本市では、検討委員会を立ち上げ、有識者や市民のみなさんのご意見を伺いながら、総合的に判断していく予定です。

◆まちづくり
交通環境について
都市計画課
☎95113246
FAX95113245
◆新文化芸術発信拠点施設
現市民会館について
文化振興課
☎9172395
FAX9175092